

Pick Up
群馬県内を
駆け抜けた

聖火



3月30日・31日、群馬県内各地を東京五輪の聖火が駆け抜けました。群馬県の聖火の始まりとなる館林市をスタートした聖火は、大泉町へ。この会場では、邑楽町出身の大野七海さん（谷中蛭沼・11区）が聖火ランナーとして登場し、160mの区間を走りました。大野さんは「貴重な体験ができて光栄に思います。たくさんの温かい声援やメッセージに感謝します。これからも皆さんの応援を力に頑張ります」と話していました。

大野 七海さん（谷中蛭沼・11区）
おのの・ななみ ●2018年女子野球日本代表。高島小野球クラブで野球を始め、館林ボーイズで硬式野球に触れる。高校時代は京都市の福知山成美高校に野球留学。現在は大阪体育大学の4年生

2020
03.05

トンガ王国大使館を訪問

トンガ王国大使館を訪問し、ホストタウンを目指している意向を表明

2020
06.05

国から共生社会ホストタウンを目指す自治体として採択

共生社会ホストタウンとは、パラリンピアンを受け入れを契機に、総合的なユニバーサルデザインのまちづくりや心のバリアフリーの取り組みを実施し、大会以降も共生社会の実現を目指す自治体のこと

2020
11.07

邑楽町・トンガ王国文化交流セレモニーを開催



邑楽町初となる、トンガ王国との文化交流を実施。トンガ王国関係者を招待し、交流への第一歩を踏み出しました

実現への軌跡

町がホストタウン登録に向けて動き出したのが、1年前。そのときに相手国として選んだのが日本に多くのラグビー選手などを輩出する島国『トンガ王国』でした。

この国を選んだ理由は、町内唯一のトンガ王国出身者、故ワテソニ・ナモアさん（以下、ナモアさん）の活躍。ラグビー体験教室などの講師を務めるなど、スポーツを通じて、町の活性化に貢献していました。

ナモアさんを通じ、令和2年3月にトンガ王国大使館にアプローチしたことが、今回の交流へのはじまり。スタートラインに立った町は、11月に文化交流セレモニーを開催し、交流の第一歩を踏み出します。しかし、架け橋となっていたナモアさんが12月に急逝。その遺志をラトゥ志南利さんが受け継ぎ、架け橋役を担ってくれました。

そして、ついにホストタウン登録が実現。町では、これを契機に、大会後の事後交流を計画しています。食文化やスポーツを通じてパラリンピアンなどと交流し、共生社会の実現に向けて活動していきます。

トンガ王国国歌を収録・配信



おうら少年少女合唱隊SING!が歌う、トンガ王国国歌を収録・配信

ホストタウン登録の軌跡

2021
01.12

トンガ王国に向けた応援メッセージ配信



スポーツ少年団や青年学級の皆さんが、トンガ王国への応援メッセージを発信

SNSでも情報発信中



Twitter



YouTube



2021
02.08

邑楽中学校手紙プロジェクトの動画収録・配信



邑楽中学校の2年生がトンガ王国に向けて、町の魅力を発信

トンガ王国との交流に関する合意書締結



東京2020大会のホストタウン

ホストタウンの目的は、全国の自治体と開催予定の東京2020大会に参加する国・地域の人々がスポーツや文化、経済などさまざまな分野で交流を図ること。開催地である東京だけでなく、日本全体でその機会を生かし地域を活性化させ、未永い交流の実現を目指しています。

ちなみに、今回のホストタウン事業は過去のオリンピックにはない、史上初の取り組みです。邑楽町は県

Close Up

架け橋 つながる

トンガ王国と邑楽町の

交流事業展開

2021
03.30

ホストタウン・共生社会ホストタウン登録



3月30日、ホストタウン・共生社会ホストタウンにダブル登録。役場ロビーにその報告ブースを設けました

TONGA JAPAN COMMUNITY Message

トンガ王国との交流をより一層

日本に住むトンガ人のコミュニティ組織として、日本とトンガ王国との架け橋となる活動を続けています。邑楽町の活動は、故ワテソニ・ナモアさんから聞いており、私もずっと応援していました。トンガ王国とのさらなる友好関係を深めていくためにも、今回のホストタウン登録はとてうれしく思います。私たちも今後この組織を発展させ、スポーツや食文化などを通じてトンガ王国との交流のお手伝いができることを楽しみにしています。

日本トンガ友好協会 代表 ラトゥ 志南利さん

ラトゥ・シナリ ●1965年生まれ。1985年、ワテソニ・ナモアさんとともに、ラグビー留学で大東文化大学に入学。トンガ・日本の2カ国でラグビー代表を経験。元日本代表No.8。引退後は、ラグビーなどを通じて日本とトンガとの架け橋を務める